

【敦賀市】
校務DX計画

1. 趣旨

敦賀市では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本市では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2. 敦賀市における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、敦賀市における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

（1）GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

校務DX化チェックリストの結果によれば、「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有する」といった取り組みは多くの学校で実施されています。しかし一方で、「クラウドサービスを活用したテストに係る CBT（※1）の導入」など、保護者や児童生徒を対象とした利用については、十分に進んでいない状況です。また、一部の業務にて FAX 利用や押印、署名が必要な書類が残っていることが課題となっています。

（2）教育情報セキュリティポリシーの必要性

国の教育情報セキュリティポリシーの方向性や現状を的確に把握し、クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が求められます。また、学校では児童生徒に関する多様な情報が日常的に活用されていることを踏まえ、児童生徒の存在や情報の多様性・多目的性を十分考慮した情報セキュリティ対策を講じることが重要ととらえています。

3. 校務DXに向けた取組

（1）業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を軽減するため、まずは既存の業務支援システムの活用方法を研究・実践します。また、クラウドツールを活用し、保護者や児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進していきます。

また、FAX 利用や押印、署名については、事務効率化を図るために、関係者からも意見を聴取しながら、可能なものからクラウドツール等への移行を進めます。

(2) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提に、それに適したセキュリティレベルを確保しながら、データ利活用や個別最適な学びなど、新たな時代にふさわしい教育 DX の基盤を構築するため、教育現場の現状を踏まえ、「教育情報セキュリティポリシー」を策定します。

(3) 校務系・学習系ネットワークの統合等

校務系ネットワークの学習系ネットワークへの統合を想定し、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進めます。

【注 釈】

- ※1 「CBT」とは、「Computer Based Testing (コンピューター ベースド テスティング)」の略称で、コンピューターを使用した試験方式のこと。コンピューターのディスプレイに問題が表示され、マウスやキーボード等を使って選択肢を選んだり、答えを入力し解答を行う。